

# アフリカの 空の下で

**エ**ジプトは昨今の政治的混乱を経て、観光客の足も遠のいてしまった。しかしGSライダーであり冒険家のEric Masteter du Bestは、ケープタウンからパリへの15000kmにも及ぶ壮大な旅の途中で、カイロからアスワンまでを旅した。

「エジプトでは、アスワンで警察の封鎖で5日間足止めされ、リビア近くのメルサ・マトルーに至るまで38カ所もの軍制圧区域を通過した。カイロの道路状況は地獄だった。10回以上事故に巻き込まれそうになって、とても緊迫していた。ある夜、ハイウェイのそばでキャンプしていると、警察がやってきて、3日前に800人も囚人が脱獄したので、その場を離れるように言われた。でも我々はとても疲れていて、とても動ける状態じゃなかった。そのままぐっすり眠ったよ、早朝5時に朝の礼拝が大音量で流れてくるまでね。」

エリックはR1200GSと他の6人のライダーと共に、昨年12月8日、南アフリカのケープタウンを出発した。文化の壁を越える、笑顔の力を表現する「アフリカの笑顔」と題されたアート・プロジェクトのために、バイクで国々を巡りながら写真を撮るというのが目的だった。

一緒に出発した7名のうち、2月15日にゴールテープを切ったのは、たった3人だった。「バイクにとってではなく、人間にとってかなり厳しい旅だった。一人はケニアで足を骨折し、一人は想像していた旅と違ったと言って脱落し、他の二人はスーダンを恐れて、エチオピアのアジスアベバで断念した。僕の他に最後まで残った二人は、本物のGSファンで、たとえ転んだとしても決してバイクのせいにはしない奴らさ。」



## BMW Motorrad World Topics

彼ら同様、エリックも自分のR1200GSを褒める事しかない。「トラブルと言えば、エジプトでフロントライトが切れて、ケニアでは一番ゴツゴツしたオフロードでサスペンションの調子が悪くなったくらい。6000ユーロ分のスベアパーツを持つてきたのに、全く必要なかった。次は代わりに高級なフランス産ワインを持ってこよう。」

エリックのスマイル・プロジェクトは順調に進み、たくさんの人々とのつながりをつくる事ができた。「みんな我々の考えに共感してくれて、特に子供たちがポーズをとってくれたから、それがパスポートの代わりだった。笑顔はアフリカの大きな財産だと思う。どんな状況においても、国を豊かにしてくれるものだから。スーダンを越えるまではうまくいっていたんだけど、エジプトに入ると難しくなった。人々はカメラを怖がり、軍人は笑ってくれないから。」

11カ国にも及ぶ長い旅には、見所がたくさんあって、どこが一番よかったですか選ぶ事などできないそうだ。「ケニアには驚かされた。一番厳しい場所ではあったけれども、本物のアドベンチャーだった。出発する前は、スーダンがこの旅の一番の難関になるだろうと思ったが、今回訪れた国の中で、スーダンは最も美しい国だったし、人々はすごくいい人達だった。」



エリックの次のプロジェクトは、BMW GS 30周年を記念して、その歴史と旅を本にまとめることだ。5月には、2012年にスタートする1940年式のシトロエンでパリからベイルート、北京まで巡るツアーの下見の旅に予定だ。秋には他のR1200GSライダーと共に、チリからアルゼンチンまでのGS Gringo Rally 2011に参加するなど、GS冒険家のアドベンチャーは終わらない。

